

4町のすがたに迫る!

テーマ「まちの文化財」

緑町

「平等寺の木造薬師如来立像」



「歴史の語り部木造薬師如来立像」

緑町を代表する文化財として、県指定重要文化財の木造薬師如来立像があります。平等寺(倭文庄田)にまつられるこの立像は、昭和43年に指定され、漆箔、158cmの堂々たる風ぼうを持っています。丸くならかな肩の線、ゆったりと豊かな体つきや流れるような衣装のひだが藤原彫刻の特色を備えており、12世紀前半をくだらない時期の制作と考えられます。

西淡町

「西淡町が誇る三つの銅鐸(国指定)」



「国指定・三つの銅鐸 玉青館でレプリカを展示中」

西淡町にある国指定重要文化財の三つの銅鐸。写真左は津井・隆泉寺所蔵で、日本で鑄造された最も古い型式のもの。写真中央は松帆・日光寺所蔵で、全国でも3例しかない舌(ぜつ)という銅の棒を伴ったもの。写真右は松帆・慶野地区所蔵で、四ツ足の獣の文様があります。どれも歴史的価値のあるもので、滝川記念美術館玉青館(松帆西路)ではレプリカを展示しています。ぜひご来館ください。

三原町



「左手に薬壺を持つ薬師如来立像
高さ156cm」



「堂々たる風格の釈迦如来坐像
高さ236cm」

「成相寺と国分寺の本尊は国指定重要文化財」

成相寺(八木馬回)の本尊、薬師如来立像は平安時代初期の作で淡路最古の仏像。頭頂から足下までが一本の木で造られています。正式名を薬師瑠璃光如来といい、瑠璃光をもって病苦を救いたまう如来です。国分寺(八木国分)の本尊、釈迦如来坐像は、暦応3年(1340)大仏師法橋命円らによって造られたことが記されています。楠の寄木造で堂々たる風情をもっています。

南淡町



「穏やかな表情の木造大日如来坐像」

「護国寺の木造大日如来坐像」

淡路七福神巡りの一つ、布袋尊の霊場である護国寺の本殿には、木造大日如来坐像があります。この像は、平安末期の作品で、ヒノキ材による寄木造りです。明治34年、国宝に指定され、現在は国指定重要文化財(美術工芸品)に指定されています。特徴は、『胎蔵界』の大日如来であり、全体としてまことに穏やかな表情をしています。毎年、お盆とお正月の各3日間一般公開されています。